

自殺のススメ

maemuke

自殺の前に

東京海洋大客員助教授・さかなクン さん

中1のとき、吹奏楽部で一緒だった友人に、だれも口をきかなくなったときがありました。いばっていた先輩（せんぱい）が3年になったとたん、無視されたこともありました。突然のことで、わけはわかりませんでした。

でも、さかなの世界と似ていました。たとえばメジナは海の中で仲良く群れて泳いでいます。せまい水槽（すいそう）に一緒に入れたら、

1匹を仲間はずれにして攻撃（こうげき）し始めたのです。けがしてかわいそうで、そのさかなを別の水槽に入れました。

すると残ったメジナは別の1匹をいじめ始めました。助け出しても、また次のいじめられっ子が出てきます。いじめっ子を水槽から出しても新たないじめっ子があらわれます。

広い海の中ならこんなことはないのに、小さな世界に閉じこめると、なぜかいじめが始まるのです。同じ場所にすみ、同じエサを食べる、同じ種類同士です。

中学時代のいじめも、小さな部活動でおきました。ぼくは、いじめる子たちに「なんで？」ときけませんでしたが。でも仲間はずれにされた子と、よくさかなつりに行きました。

学校から離れて、海岸で一緒に糸をたれているだけで、その子はほっとした表情になっていました。話をきいてあげたり、励ましたりできなかったけれど、だれかが隣にいただけで安心できたのかもしれない。

ぼくは変わりものですが、大自然のなか、さかなに夢中になっていたらいやなことも忘れます。大切な友だちができる時期、小さなカゴの中でだれかをいじめたり、悩んでいたりしても楽しい思い出は残りません。

外には楽しいことがたくさんあるのもったいないですよ。広い空の下、広い海へ出てみましょう。

一番初めに さかなクン さんの言葉を引用してみました。

この言葉に励まされる人は本書の対象外ですので、そのまま頑張って生きてください。

励まされないあなた。死にたい理由は何ですか。

いじめられた、パワハラやセクハラを受けた、借金苦…

いろいろあると思います。

それらから逃れる手段として自殺があってもいいのではないのでしょうか。

あるいは、いじめに対する復讐として相手を社会的に抹殺させるために

自殺することは認められてもいいのではないのでしょうか。

「楽しいことがたくさんあるのだから自殺するなんてもったいない。」

という人は多くいますが、

いつやってくるのか分からない楽しいことのために、なぜ苦しい思いをして今を生きていかなければならないのか

ということに対して誰も明確な答えを与えてはくれません。

私はうつ病になり、自殺願望を抱くようになりました。

現状が辛いので宗教でも何でもいいから助けてくれそうなものを

色々調べましたが、最終的に得た結論が「**自殺の何が悪い！**」ということでした。

まず、第一に宗教的な観点から調べてみました。

エホバの証人の方から『聖書は実際に何を教えていますか』（Copyright (C) 2005 Watch Tower Bible and Tract Society of Pennsylvania）という本をいただきました。

この本の64ページに「死者は体の痛みも心の痛みも経験しません。死者を怖がる必要はありません。」という記述があります。

体の痛みも心の痛みも感じないなんてとても幸せな状態ではないでしょうか。

だったら、この辛い体や心の痛みを感じない状態へ自分を誘って何がいけないのでしょうか。

「人間には幸せになる権利がある」なんてことを言う人がいますが、だったら体の痛みも心の痛みも経験しない死者になることが幸せだと考えれば、権利を行使して自殺しても一向に問題ないはずです。

また、同本の108ページで「この世界の本当の支配者は悪魔サタンです。」、109ページで「サタンはエホバが支配する権利に関して疑問を投げかけたのです。」と書かれています。

であれば、自殺という形でサタンが支配する権利に対して疑問を投げかけてもいいのではないのでしょうか。

さらに114ページでは「人間はある程度の自由があることを好みます。神も人間がそうした自由を楽しむことを願っておられます。」との記載があります。

当然、自殺する自由が認められてもいいのではないのでしょうか。

同じ方からいただいた冊子『目ざめよ！ 2014年4月』の7ページに「わたしたちは、あらゆる面で圧迫されながらも、動きが取れないほど締めつけられているわけではなく、困惑させられながらも、逃れる道が全くないわけではな（い）」とコリント第二 4：8の引用があります。

いじめ等からの逃がれる道＝自殺ととらえても別にかまわないはずです。

『目ざめよ！ 2014年6月』の9ページには聖書の教えとして「死者は、喜びも苦しみも経験しません。実際、意識はないので全く何も経験できず、生きている人を助けることも害することもできません」ということが記載されています。

無理して人を害する必要もありませんし、誰かを助ける必要もありません。苦しみもこれ以上経験したくないので自殺してもいいはずではないかと考えます。

別の書籍になりますが、『NHK 宗教の時間 聖書によむ「人生の歩み」上』（2014年4月1日発行 著：船本弘毅 NHK出版）の24ページには「十戒や聖書には、「死んではならない」という戒めはない」ともありました。

以上のことから、少なくとも聖書では自殺を否定していないことが伺えます。

だったら「**自殺してもいいじゃないか！**」

また別の宗教ではどうだろうと仏教について調べてみました。

下記のサイトで仏教が自殺を禁じているかについての考察がありますが

http://www.geocities.co.jp/Technopolis/3138/suicide_buddhism.html

読んでいただければお分かりのように仏教は自殺を禁じておりません。

少なくとも世界三大宗教のうち二つは自殺を禁じているわけではないわけです。

（ちなみにイスラム教では自殺は禁止されているそうです。）

それならば「**自殺してもいいじゃないか！**」

第二に法律上禁止されていないのか確認しましたが、刑法に人を殺したときの罪について記載がありますが、自殺した場合の罪については存在しません。

例えば飛び降り自殺をした際に下を歩いていた人にぶつかってしまえばそれは罪です。

しかし、上記のような人に危害を加えない限りにおいては罪ではないのです。

じゃあ「**自殺の何が悪い！**」

第三に生きることはそんなに絶対の価値があるものでしょうか。

発展途上国に旅行等に行き、強盗に遭った場合、簡単に命を奪われるということは皆さんご存知のことだと思います。

発展途上国ではわずかなお金と引き換えに簡単に失われる命。

命は端金で失われるものだという考えからすれば、日本のように命に対して至上の価値を置くのがおかしいといえるでしょう。

命に価値をつけなければ、捨ててしまっても惜しくはないはずです。

「**命を捨ててしまうことがそんなに惜しいことか？**」

以上のような理由から私は自殺を肯定的なものとして捉え、行使することをお勧めします。